
行歯会だより -第78号-

(行歯会=全国行政歯科技術職連絡会) 2012年6月号

【今月の記事】

- 第30回地域歯科保健研究会(夏ゼミ30湘南2012) [神奈川県 北原]
- 「第61回口腔衛生学会・総会」レポート [神奈川県 中條]
- 地域紹介「中核市になって」 [豊中市 加藤]

☆☆情報発信☆☆

第30回 地域歯科保健研究会(夏ゼミ30湘南2012)

神奈川県厚木保健福祉事務所 北原 稔

夢を描き 実現させる には through organized 夏ゼミ efforts

バブル景気が始まろうとしていた昭和58年(1983年)
ガリ版や青焼き(アゾ式複写機)で作られたこんな案内状から
「保健所歯科夏期集中練成ゼミナール」なる名称で
2泊3日の自主的研修が神奈川・湘南の地で始まった。

今！まさに保健所歯科は21世紀に向けて奮闘しよう
としています。ところがその担い手である我々は、煩雑な
日常業務をかかえ、これに追われているのが現状です。
画期的なアイデアも実行に移せないうま埃をかぶって
いませんか。表層的な事柄ばかりに右往左往しない
本質の方向性について共に模索してみたいと思いません
か。いつまでも『想い』のままではないで、現実の『もの』
なり、『Plan』なりに変えてみたいという——そんな機会
を持ちたいということで（夏期集中練成セミナー）を
開催します。まるで予備校のような名称ですが、多くの
“志”ある仲間に参加してほしいと思います。

この第1回のしめくりは

『我々は、微力だけれども、汗まみれ、泥まみれの日って、
21世紀の歯科保健を、公衆衛生を、保健所の未来を、作り
上げてゆこうではなか』

それから30年

保健所法 は 地域保健法 となり、
夏ゼミも「地域歯科保健研究会」の名称になって、
本年度で30回目となる。

各道県に歯科保健の条例ができ、歯科口腔保健推進法ができた、今、
再び なつかしの湘南の地で
原点に立ち返って 次なる未来を目指すときがきた。

地域歯科保健を愛するもの、志のあるもの、夢を抱く若者よ
たった1日のゼミだけれど、集まって、次の未来と一緒に考えましょう！
皆で描いた夢こそが、地域歯科保健の未来を変えます

第30回地域歯科保健研究会（夏ゼミ 30 湘南 2012）実施概要

- 1 開催日時 平成24年7月28日（土）（10時～17時30分）
- 2 会場 さがみ農協茅ヶ崎ビル5階 大会議室（最寄り駅：茅ヶ崎駅北口5分）
〒253-0044 神奈川県茅ヶ崎市新栄町13-44
- 3 主催 第30回地域歯科保健研究会実行委員会
実行委員長：北原 稔（神奈川県厚木保健福祉事務所）
副委員長：若林良孝（神奈川県足柄上保健福祉事務所）

4 内 容 （詳細はHP）

(1) テーマ

『夏ゼミ30年の歩みとこれからの地域歯科保健～みんなで料理しよう！歯科口腔保健推進法～』

(2) 講演・情報提供

ア 講演「夏ゼミ30年の歩みとこれからの地域歯科保健」

講師：石井拓男（元・厚生労働省）

イ 情報提供「歯科口腔保健の推進に関する専門委員会から」

井下英二（滋賀県）、尾崎哲則（日本大学歯学部）

(3) 自由発表

(4) 情報交換・グループワーク

5 対象者 行政職員、その他地域歯科保健医療に携わる者等

6 参加申し込み方法

参加ご希望の方は、**7月15日まで**に事前にお申し込みください。

申込み [こちら](http://kokucheese.com/event/index/39313/) HP <http://kokucheese.com/event/index/39313/>



- 7 参加費 事前登録された方 1,000円 携帯からもアクセスできます。
- 事前登録されなかった方 2,000円
- 懇親会費 事前登録された方 4,000円
- 事前登録されなかった方 5,000円
- 懇親会日時 平成28年7月28日（土） 18:00～20:30
- 会場 LUSCA 茅ヶ崎ラスカ6Fサロン（茅ヶ崎駅ビル内）

- * 事前参加登録がない場合、受付人数を超えると当日参加をお断りすることがあります。
- * 費用は当日受付でいただきますので、登録後の無断不参加だけはご容赦ください。
- * 参加登録後の変更はできるだけ早くご連絡ください。
- * 参加予定者数： 約200名まで（制限があるため、事前に参加申込みください。）
- * 近隣に昼食をとれる場所が少ないため、できるだけお弁当持参で会場にて召し上がってください。

☆☆学会報告☆☆

「第61回口腔衛生学会・総会」

～「フッ化物応用によるデンタルプラークのコントロール」を中心に～

神奈川県保健福祉局保健医療部健康増進課 中條 和子

行歯会の皆様はじめまして。この4月よりご縁がありまして神奈川県保健福祉局保健医療部健康増進課に所属しています、中條と申します。このたび、神奈川県歯科保健における大先輩、厚木保健福祉事務所の北原先生に行歯会への入会を勧めて頂き、即、入会させて頂きました。今はまだまだ、歯科保健及び行政について、右も左もわからない素人ですが、努力して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本稿では、皆様へのご挨拶と自己紹介も兼ねまして、去る5月25日(金)から27日(日)の3日間にわたり、神奈川歯科大学において開催されました第61回口腔衛生学会・総会における、あるひとつのシンポジウムに焦点を絞って紹介させていただきます。

学会2日目のシンポジウムIは、「デンタルプラークをコントロールするフッ化物応用」をテーマに進められました。私は、シンポジストのお一人であった高橋先生が主宰する東北大学歯学研究科・口腔生化学分野にこの3月末まで所属していました。そして、「フッ化物のプラーク細菌への影響」は、8年間私が主に携わってきた研究テーマのひとつでした。故に、今回の総会で本テーマを取り上げて頂いたことは、これまでの自分の仕事へのひとつの区切りになり、また、これからの自分にとっての新たな船出を強く感じさせてくれるものとなりました。

皆様もご存知の通り、口腔(宿主)には多様で膨大な数の微生物(パラサイト)が棲み着き、歯の表面をはじめ、口腔内補綴物の表面に至るまでデンタルプラークを形成します。このように口腔は宿主とパラサイトが共生する一種の生態系を形成しているといえます。ところが、一度健康な口腔生態系のバランスが崩れると、齲蝕や歯周病などの口腔疾患に発展し、重篤な場合には抗菌剤による治療が必要となります。しかし、予防の段階において抗菌剤を用いることは、口腔生態系のバランスを崩す恐れがあります。

そこで、私達は、抗菌剤による殺菌ではなく、静菌的に宿主とパラサイトとの共生を図りつつ、プラークに起因する口腔疾患を予防する方法を模索してきました。そのひとつとして、プラーク細菌の増殖に必要なエネルギーを獲得するための糖代謝を、フッ化物を用いてコントロールする方法が挙げられます。

現在、日本では、市販の歯磨剤の8割以上にフッ化物が添加されており、またフッ化物洗口は歯科医師の指導の元、家庭での実施が可能です。さらに、歯面塗布剤も歯科臨床に

において頻繁に使用されており、フッ化物の口腔への応用は有効な齲蝕予防法として現在、世界中で広く用いられています。

フッ化物の齲蝕抑制効果は、もうお一人、シンポジストを務められた長崎大学の飯島先生がお話されていたように、再石灰化を促進させるといったホスト側への効果に関する報告は多く存在し、強調されています。一方、フッ化物がプラーク細菌の糖代謝を抑制する効果は低いとされてきました。事実、実際の口腔内における低濃度フッ化物洗口のプラーク細菌酸産生抑制効果は短時間しか持続しません。そこで私達は、低濃度フッ化物洗口前に、カルシウムやマグネシウムなどの二価金属イオンをプレリンスとして用いることで、フッ素イオンのプラークへの付着が促進され、フッ化物によるプラーク細菌の酸産生抑制効果が長時間にわたり発揮、維持されることを明らかにしました。

この結果を受けて「口腔内にプラークが残っていた方が、フッ素も残りやすくて良いということ？」という質問をいただくことがあります。どんなに歯磨きを頑張ったとしても、全てのプラーク細菌を除去することは至難の業です。このような、残念ながら取りきれないプラークに対して、低濃度のフッ化物応用でも、プレリンスとして二価金属イオンを与えることで、プラーク細菌へのフッ素イオン結合を促進し、唾液や飲食による洗い流しがあつたとしても、プラークにおける酸産生を抑制し、その結果として効率的な齲蝕予防効果の発揮が期待できるのではないのでしょうか。

それでは、なぜ、二価の金属イオンが存在するとプラーク細菌にフッ素イオンが付着しやすくなるのでしょうか？さらに、プラーク細菌に付着したフッ素イオンが、どのように菌体内に取り込まれ、菌の糖代謝と酸産生を抑制するのでしょうか？これらのメカニズムについての説明は、長くなりますので本稿では省略します。詳しくは、今年の11月9日から11日まで大阪で開催される第22回歯科医学会総会にて、ポスターセッション及びデンタル・スチューデント・プレゼンテーションにて発表を行いますので、同総会にお越しの際はぜひお立ち寄り下さい。

また、今回のシンポジウムでは、飯島先生から最近の話題として、*Streptococcus mutans* など、齲蝕関連菌にも存在するであろう「リボスイッチ」の紹介がありました。フッ化物応用における脅威のひとつは、フッ化物耐性細菌の出現です。フッ化物に長期間曝されると *S. mutans* などでもフッ化物耐性が高まることが知られています。これまで、細菌のフッ化物耐性メカニズムについては全く不明なままとなっていました。それが今年、2012年に入り、*Science* 誌において、この細菌自身のフッ化物耐性メカニズムをコードする遺伝子の発現を制御するリボスイッチと呼ばれる RNA メッセージを送る部位が、フッ素イオンの蓄積に反応し、同耐性メカニズムを強化するように働くという報告がされました。また *Nature* 誌にも関連論文が掲載されました。今後は、このような細菌の持つフッ化物耐性メカニズムの詳細な解明がなされていくことが世界的に注目されています。

以上のように、フッ化物応用は歯科分野において最も身近な話題のひとつです。私達、歯科関係者は、フッ化物応用の効果をさらに確実なものにするために、それぞれの分野における弱点を発見し、それを克服する手段を研究、確立し、実践できる環境整備を協力し

合い、行っていくことが重要です。また、フッ化物応用に限らず、同じことが、様々なことに共通して言えると思います。これらのことを、今回の口腔衛生学会・総会に参加して強く意識しました。

本稿では、基礎研究的な視点での内容を多く書かせて頂きましたが、次回、このような機会に恵まれることがあれば、これまで培ってきた経験も活かしつつ、社会歯科学的な目を養い、行政歯科医師として成長していきたいと思っております。これから様々な機会の皆様と一緒に、お仕事をさせて頂いたりすることになると思っております。その際は、ビシバシと鍛えて頂きたくよろしくご指導をお願いします。

☆地域紹介☆

中核市になって

豊中市福祉保健部保健所保健予防課 加藤 佐知子

行歯会の皆様、いつもお世話になっております。豊中市の加藤佐知子と申します。

この度、近畿ブロック理事の北尾さんから「中核市になって」というお題で『行歯会だより』の原稿を、とのご依頼がありました。これまで情報をいただくだけで何の貢献もできておりませんでしたので、紙面づくりのお役に立てればという思いで報告させていただきます。

豊中市は大阪府北部に位置する、人口 39 万人の住宅衛生都市です。平成 21 年（2008 年）には、心肺停止した人の救命率がアメリカを抜いて世界一となり、一時新聞等でも話題となりました。

さて冒頭にも書かせていただきましたが、当市は平成 24 年（2012 年）4 月より中核市としてスタートといたしました。市保健所の機構は、保健企画課、衛生管理課、地域保健課、保健予防課の 4 課体制です。当市には常勤歯科衛生士が 4 名おり、1 名は市立豊中病院、1 名は地域保健課、そして私を含めた 2 名が保健予防課の配属となりました。

中核市になったことで、これまでは口腔の問題が浮上した段階でしか関われなかった精神疾患や難病患者さんに、今年度からは申請という機会を活用し、保健師ら他の専門職とともに早い段階から相談対応や情報提供をさせていただけることになりました。

また、以前から開催されていた虐待など子どもの危機対応のための会議に、今年度から歯科衛生士も出席することになりました。さらに子ども虐待については、大きな前進がありました。子ども虐待の対応に関する仕組みづくりに、以前から積極的に取り組んできた

市立豊中病院の小児科部長が、今年度から兼務で保健予防課長に着任しました。課長はその経験から、これからの子ども虐待の取組みには産科と歯科との連携が重要という方針を職員に示しました。このことを受けて、豊中市歯科医師会にコンタクトをとったところ、趣旨へのご賛同と速やかなご対応をいただき、会員向けの研修会を年度内に開催するなど連携のしくみづくりに向けた準備がはじまりました。

市保健所スタートの日、保健予防課長の職員に向けた挨拶に「20 世紀の保健所から 21 世紀の保健所へ」というメッセージがありました。昭和 23 年（1948 年）に GHQ より戦後の新しい保健所としてモデル指定されたのが杉並と豊中の保健所でした。さらに日本で歯科衛生士養成が開始された昭和 24 年（1949 年）、最初の養成所の 1 つが豊中保健所だったそうです。新しい保健所が生まれ、また歯科衛生士という職種が生まれた地が「豊中」であったことは、誇らしくもあり、引き継いでいく者としての責任の重さも感じています。「21 世紀の保健所」における歯科口腔保健（豊中版）を見出せることができますよう、行歯会の皆様、今後ともご支援・ご指導のほどどうぞよろしくお願いいたします。

■ご案内

「第 4 回 日本子ども虐待医学研究会

学術集会 広げよう！医療職から、子どもと親を守る輪を！」

日時：2012 年 8 月 4 日（土）10：30～18：00

5 日（日）9：00～17：15

場所：大阪市立総合医療センターさくらホール

プログラム、登録方法などその他詳細は HP をご覧ください。

<http://jamscan.childfirst.or.jp/>

当市の保健予防課長が大会長を努めます。ご登録お待ちしております。

編集後記

熱い夏ゼミの最後のPRで始まる行歯会だより6月号で編集担当を卒業します。北原ゼミ長の「昔の仲間に出て欲しいです」というコメントをみて、私も夏ゼミに育てていただいたなど“しんみり”。

編集担当のコンビを務めてくださった堀江先生・秋野先生そして原稿依頼に快諾いただいた皆様に感謝と夏ゼミでお会いできることを楽しみにしています。
(K)

編集後記は匿名かと思っていましたが、Kさんこと京都市北尾さん、今月号が最後の担当でした。お疲れ様でした！

行政歯科職は、自治体の中でも極めて少数派で苦勞することも多いですが、逆に全国に仲間を作って、ネットワークを張り巡らせれば、他職種には真似できないような仕事がやれます。ネットワークづくりには最高の夏ゼミがまたやってきますね。(A)